

平成26年度第1回山内図書館利用者フォーラム 会議録

1. 日 時 平成26年6月9日(月) 14:00～16:00
2. 場 所 山内図書館集会室
3. 出席者 利用者フォーラムメンバー
千葉委員(代表)、貞廣委員(副代表)、管野委員(欠席)、片瀬委員、
平原委員、地主委員、岡嶋委員、立石委員、下田委員

事務局

柴田課長、荻野係長(有隣堂本部)

村田(三洋装備)

古川館長、能川副館長、味元(山内図書館)

4. 案 件

- (1) 横浜市山内図書館平成25年度事業報告
- (2) 平成25年度「横浜市山内図書館利用者満足度調査」結果報告
- (3) 平成25年度の運営評価について
- (4) 横浜市民の読書活動の推進に関する条例について
- (5) その他

5. 概 要

(1) 横浜市山内図書館平成25年度事業報告(古川館長)

- ①事業報告に先立ち、利用者フォーラムのメンバーの大西委員から委員辞退の申し出があったことを報告。
- ②「横浜市山内図書館平成25年度事業報告書」について、パワーポイントを併用して説明。平成25年度に行った特徴的な事業としては以下のものが上げられる。
 - ・山内朝市の開催(7月、11月)
 - ・人間工学的側面から館内サインをリニューアル
 - ・無線LANを利用できる席を2席から13席に増設
 - ・商業データベース「ヨミダス」を追加
 - ・従来の子ども向けの調べ方講座に加え、大人向けの調べ方講座も実施
 - ・横浜美術大学と連携、館内に卒業制作作品を展示

- ・夏のおはなし祭り、館内で一日中おはなし会を開催

③ 質疑応答

Q. 大人のためのお話会の参加者はどのような人が多いのか。

A. 山内図書館おはなしボランティア空とぶじゅうたんのメンバーが中心になって実施。毎回、テーマを決め、お話を選択し、年3回（6、10、12月）開催。年齢的には50～70歳代が多い。最近は男性とリピーターが増えている。その時の演目にもよるが、休憩をはさんで1時間30分から2時間程度行っている。

<メンバーからのご意見>

- ・いろいろ新しいことに取り組んでいることがよくわかった。
- ・お話会は大人の利用者も呼べるイベントになっている。
- ・地域文庫の利用者から、山内図書館は有隣堂になってよくなったということを伝えて欲しいという伝言を預かってきた。

(2) 平成25年度「横浜市山内図書館利用者満足度調査」結果報告についての説明

(古川館長)

- ・全体として9割の方に満足という評価を得ている。
- ・利用者は、6：4で男性の利用者が多い
- ・60歳代以降の利用が多く、40歳以上で利用者の三分の二を占める。若い層へのアピールが必要か。
- ・利用者の82%が青葉区内、緑区、都筑区を合わせると91%となり、地域密着型の図書館といえる。

① 質疑応答

Q. アンケート結果は想定内か

A. 満足度は昨年度よりも上がっているので、よかったと思っている。

Q. 不満足にはどういうことが上がっているのか

A. 山内図書館だけでは対応できないものが多い。蔵書数が少ないとか、予約のシステムについてなど。これらは、横浜市立図書館の全体サービス調整会に出す要望に、利用者からの声としてあげている。

Q. 図書館システムを改修するのは、難しいのか。

A. 大変である。

Q. 広報などでも地区センターに蔵書があることを知らせてもらってはどうか。

A. 山内図書館は区内の図書貸出施設マップを作成しているが、今年から施行される読書条例を受けて、区とも協力して貸出施設マップをリニューアルし、多くの人に活用してもらえるようにしようという話も出ている。

Q. コミュニティセンターや市民図書室の本は蔵書検索できるシステムがあるのか。

A. コミュニティハウスの蔵書検索と地区センターの蔵書検索は別で、コミュニティハスは蔵書検索システムがないと思われる。

Q. 不満足の高かった30歳代男性はどのような本を探しているのか。仕事の本なのか、趣味の本なのか。

A. ハウツウ、処世術、健康などの分野が多い。書店でよく見かける新書本は図書館では蔵書が少なく、不満に感じているのかもしれない。

<メンバーからのご意見>

- ・横浜市蔵書検索と地区センター蔵書がリンクしていないのは、もったいない。横浜市で予約多重となっても、地区センターでは予約がはけていて、すぐに借りられる状態にあることがある。
- ・横浜市は図書館が少ないので、図書館の本を検索したとき、地区センター蔵書の状況に表示されると便利である。もちろん今でも、横浜市の図書館のホームページに、地区センター蔵書検索が掲示されており検索できるが、図書館検索とは別に改めて検索を行わねばならない。また在庫か貸出中かを確認するには、各地区センターに個別に連絡を取らなければならない、不便である。
- ・地区センター蔵書検索の表示をもっと目立つようにしてはどうか。現在はフォントも小さく、表示されている場所もわかりにくい。
- ・図書館システムとつながらなくても、同じシステムのもものがネットワークでつながって、どこにどういうものがあるかわかるようになるとうい。これは、学校間においても同じで、意見がよくでてくる。
- ・新刊を早く読みたいという要望が多い。満足度を上げるには、新刊をいかに早く回転させるかが重要。地区センターなどとリンクされると、不満解消につながるのではないかと。
- ・30歳男性向けのおすすめの本コーナーをある期間つくってみて、ニーズを探ってみてはどうか。
- ・おすすめの本のコーナーを作った際、投票場箱を設け、「ハズレ」か「ツボ」かを投票してもらうのもよいかもしれない。

- ・ティーンズコーナーは最近浸透してきており、制服姿の方をよく見かける。
- ・仕事に関連する本など、普段自分からは手にしない本も並んでいて興味深い。
- ・何年か前に「イクメンの本の展示」をしていたが、面白かった。
- ・最近は、「ママなしで、パパと子ども」という組み合わせの来館者も多い。パパに読んでもらいたい絵本のリストなどをつくってはどうか。
- ・お父さん、おじいさんに向けての読み聞かせ講座などを実施してはどうか。

(3) 平成25年度の運営評価について

メンバーとこれまでの運営、これからの運営について、意見を交換。

- ・これまでもデジタル資料に力を入れているが、さらにAR技術を使い、街歩きをしながら、タブレット型端末でその場所に関する資料が見られるようなことも考えてみてはどうか。
- ・子どもたちの間では、「妖怪」が人気となっている。本をあまり読まない子どもの来館を促すためにも、企画展示として妖怪本関連コーナーなどを設けてはどうか。現在は「怪談レストラン」などよりも、妖怪ウオッチの流行によりダイレクトに「妖怪」への関心が高まっている。
- ・学校連携で、学校のボランティアに向けての講座はよく行っているが、お話ボランティアに向けての講座も開催して欲しい。具体的には、藤田浩子さん、尾松純子さんの手袋人形、末吉正子さんなどの参加型のお話の講座など。地域で行うおはなし会のための講座も開催して欲しい。
- ・おじいさん、おばあさんが孫を預かっている家も多いので、おじいさん・おばあさんに向けた読み聞かせ講座や、孫と遊ぶためのおもちゃをつくる簡単な工作の講座など、孫と祖父母を結ぶ講座を行ってはどうか。
- ・おじいさん、父親にむけた読み聞かせなどの案がでたが、実際は指導されたくない人も多く、難しい面もあるのではないかな。
- ・山内図書館に登録し、読書活動を行っている団体のフェアなどを企画して、ワークショップなどを行ってもらってはどうか。例えば、英語で紙芝居など。地域に暮らす外国の方も巻き込んで、お話の世界を広めていけるのではないかな。
- ・劇団四季が小学校で「美しい日本語」の講座を開いているが、そういうヴォイストレーニング的な講座も行ってもらいたい。
- ・青葉区の企業人や第一線で活躍中の人の話を聞く、青葉区版「プロフェッショナル仕事の流儀的」講演会を開催して欲しい。

(4) 横浜市民の読書活動の推進に関する条例について（古川館長）

配布した「横浜市民読書活動推進計画【概要】」を基に、読書条例の骨子を説明。

(5) その他

次回は平成27年1月に利用者フォーラムを開催することを確認。

配布資料 会議次第 横浜市山内図書館平成25年度事業報告書 横浜市民読書活動推進計画【概要】